

日田商工会議所 デジタル委員会 議事録

1. 日 時 令和 8 年 8 月 26 日（水） 10:00～

2. 場 所 日田商工会館 4 階 議員サロン

3. 出 席 者

（会頭）瀬戸 亨一郎

（委員長）宮野 大樹

（専務理事）樋口 恒成

（委員）大塚 智、安田 徳章、東 真吾

（事務局）大石 昭典、永瀬 亜沙美、佐藤 駿、栗野 稔、春口 国博

4. 議事経過

1) 委員長挨拶

・ 宮野委員長より開会の挨拶があった。前回の委員会からさらにいくつかの進捗があった旨が報告され、本日は特に来年 4 月に開設を予定している「デジタル相談窓口」の設置に向けた具体的な取り組みや、会員向けセミナーの企画について議論を深めていきたいとの方針が示された。

2) 議題

①商工会議所内のデジタル化の進捗状況について

・ 事務局（永瀬）より、7 月からスタートした大分県の「ONE OITA 中小企業等 DX 総合支援プログラム」を活用した、専門家（工藤先生）によるコンサルティングの進捗報告があった。

- 8 月 7 日に第 2 回目のミーティングが実施され、以前職員向けに実施した「手間がかかる業務」「二重入力している業務」の棚卸し結果から、まずはすぐに取りかけられる「4 つのテーマ」に絞り込んで具体的な改善を進める方針が提案された。

- テーマ 1【文書管理】：郵便物や会議案内などを台帳に記録し、全職員に回覧して押印（サイン）を求めた後にファイリングしている現状があり、膨大な作業負担となっている。改善案として、回覧自体を全面的に廃止。日付順にファイルや箱へ入れて共有スペースに置き、見たい人が各自で見に行く運用（排除：E）へ変更する。さらに保管期間を設定し、期限超過後はそのまま廃棄することで管理コストを削減する。

- テーマ 2【AI カルテ】：相談カルテは現在各自が手入力しており、内容が薄くなる傾向がある一方で、詳細に書くと指導員の多大な負担となるジレンマがある。そのため、相談支援時に相談者の承諾を得てスマホやレコーダーで音声を録音し、そのデータを Gemini Notebook 等の AI に読み込ませて自動生成した要約文を、TOAS（トータル OA システム）のカルテに貼り付ける運用を提案。これにより、作成時間を削減しつつ詳細なカルテを作成する。

- テーマ 3【貸し会場管理】：現在はホームページ上のカレンダーと紙の台帳で二重管理しており、FAX や電話での重複チェックなどのアナログ処理が発生している。改善案として、ホームページからオンラインで直接予約を申し込めるフォームを構築し、Google カレンダーと自動連動させて空き状況をリアルタイムで可視化する。電話受付の際も聞き取りシートを介してオンライン入力し、管理を一元化する。

- テーマ 4【LINE・メール】：会員への情報発信強化のため、登録ハードルの低い公式 LINE 登録

を最優先で促す。公式 LINE を起点として「メールマガジンに登録すると有益な情報が届く」などの動線を設計し、個人情報保護の観点から収集が難航しているメールアドレスの登録を誘導する。

- また、9月16日から開催される大分県等主催の「AI 活用実践プログラム研修」(全3回)に、事務局(永瀬)と指導員の中島の2名が参加することが報告された。次回オンラインコンサルティングは8月8日に実施予定。

• この4つの改善テーマについて、承認を得るべく意見が求められた。

- 安田委員より、文書管理の「見たい人が見に行く」運用について、「見に行かない職員が出てくる懸念がある。重要な情報や、落としてはいけないものを確実に共有できる明確なルールが必要である」との指摘があった。

- また、安田委員より、AI カルテの録音について「自社(銀行)でも導入している。当初は自分の話す内容が文字起こしされるため、恥ずかしい、変なことは言えないといった抵抗感があったが、慣れてしまえば問題なく、今では顧客にも浸透している。最初の抵抗感を乗り越えれば大きな効果が出る」との実体験が紹介された。

- 瀬戸会頭より、「人間が慣れるのと同時に機械(AI)も学習して慣れてくる。最初は専門用語などの変換ミスや使いにくさがあるかもしれないが、言葉を学習することで変換精度も上がり、壁を乗り越えれば効果が出てくるため、しっかり推進してほしい」との期待が示された。

• 宮野委員長より、「すべての情報ではなく、重要なものを仕分けるルール作りや、相談者への録音許可のプロセス、職員間でのルール共有を徹底し、属人化させずに継続できる体制を整える」とし、本委員会としてこの4つのテーマの実行を承認した。また、「資料や記事作成で事務局はすでに AI を使っており、1歩目は進んでいる。今回は2歩目として停滞せず来年度に向けて進めていこう」と総括した。

②AI 活用セミナーについて

• 宮野委員長より、おおいた AI テクノロジーセンターの専門家に打診し、講師派遣による「AI 活用セミナー」の開催が合意された旨の報告があった。

- 11月以降を目標に、1~2本程度のセミナーを開催したい考えである。商工会議所デジタル委員会主催とし、他団体にも呼びかけて集客を行う。

- セミナーのテーマとして、「企業が生成 AI を使用するにあたり、最も懸念しているセキュリティ(データのインプット範囲や情報漏洩のリスク)について正しく伝える内容」を最初のテーマとして想定していることが示された。

• 企業の AI・DX 活用の現状について議論がなされた。

- 安田委員より、銀行における取り組みとして、顧客向けポータルサイトや CRM への移行を進めている実態が共有された。また、「個人が ChatGPT などを使用する際の情報漏洩リスクについては銀行内でも非常に注意されており、銀行が提供するセキュリティ環境が担保された AI サービスを導入している。」との現状が紹介された。

• 宮野委員長より、会員企業および職員も交えて参加できる構成とし、詳細なセミナー企画は講師側の対応可能な内容を詰めながら、進捗があり次第次回以降で協議していくこととなった。

③その他

- ・事務局より、公式 LINE およびメールマガジン（E-MAIL）の登録者数について、8月現在の進捗が報告された。

- 登録者数推移：

公式 LINE：3月(228件) → 4月(268件) → 5月(345件) → 7月(383件) → 8月(391件、本日時点で392件)

E-MAIL：3月(257件) → 4月(305件) → 5月(331件) → 7月(334件) → 8月(370件)

- 事務局より、各団体へアドレス収集のお願いの文書を郵送しているが、返信状況は「○（協力）」「×（拒否）」「相談（検討中）」に分かれている。

* 「○」でも、旅館組合のようにメールアドレスではなくホームページの URL の回答にとどまる事例があり、現在事務局に直接問い合わせを行っている。

* 「×」の理由は、個人情報保護の観点から提供を断られる、あるいはメールアドレス自体を把握していないというもの。

* 「相談」は、役員会や理事会での検討待ちである。

- ・登録数増加に向けた具体的なアプローチについて、活発な意見交換が行われた。

- 瀬戸会頭より、「各団体が本当に集めるべき傘下企業へのアプローチがまだ進んでいない。個人情報と言われることもあるが、ホームページ等で全世界に公開している会社情報は個人情報にはあたらない。個別に説明し納得してもらい、登録を集めるしかない。事務局からぜひアプローチをお願いしたい」との指摘があった。

- 大塚委員より、「自社のホームページを持っている会員が3割程度いるのであれば、そこからメールアドレスを検索して取得し『ホームページから取得した』と説明した上で登録を促すなどの方法も有効である」との提案があった。

- 東委員より、「各団体の理事会等に参加したが、会員側は『商工会議所の都合で登録させられる』と感じ、情報漏洩への感覚的な面倒臭さや懸念を抱いている。会議所のためではなく、会議所の連絡IT化によって、会員側がどのようなメリットを受けられるのかを実感してもらうことが最優先である。」との意見が述べられた。

- ・瀬戸会頭からも「誰がどれだけのアドレスを持っているか把握できていない部分もある。まずは内部から効率化を進めて背中を示す」とし、今後も各ルートでの登録収集の徹底と、内部効率化の推進を両輪で進めていくことが確認された。

3) 閉会（10:27）